

人生の節目の年にあたる厄年は、健康、仕事、私生活などあらゆる面で難を招きやすい年頃といわれ、誰もが健康で充実した人生を無事送りたいと願う気持ちは昔も今も変わりません。



小國神社では、一月二十日より二月三日まで厄除大祭を執り行います。厄年のお祓いをはじめ八方塞がり・黒星・災厄除等諸々のご祈祷をご奉仕申し上げます。

健康で充実した人生を願って

厄除大祭

1月20日(土)～2月3日(土)

厄年とは何ですか

古くから日本に伝わる考え方、身の回りの凶事・体調不良など、様々な難を招きやすい年とされます。男性は二十五歳・四十二歳・六十一歳、女性は十九歳・三十三歳・三十七歳が厄年とされ、その前後の年齢を「前厄」「後厄」と言います。

これらの年は神事で重要な役目を担う風習があったことから、神祭りでの「役(やく)」が厄年の語源であるとも言われ、神さまに失礼のないよう慎み、心身を清浄にするため、ご祈祷を受けたのが厄除のはじまりとも考えられます。全国的にはお正月から節分までに神社で厄除のご祈祷を受けます。

「年」を大切にしてきた日本人

私たちは人生の様々な節目の「年」を大切にしてきました。初宮詣・七五三詣・成人式・還暦や米寿の「年祝い」など、人生儀礼のお祝いを行ってきました。

人生は山あり谷あり様々な厄災があり、それらを乗り越えてゆくことの難しさを日々の生活から学びます。だからこそ、私たちの祖先は一日一日を大切に、「年」を重ねる喜びと、神々に「生かされている」ことへの感謝を忘れませんでした。



「心の安らぎ」と「鎮守の杜」

神社にお参りをすると心が清々しくなります。日々の暮らしでは様々な厄災があり、とりわけ今日では、現代社会の歪みからくる事件・事故など凶事も多くなり、心の荒廃など精神を病むことも増えつつあります。

日本人の多くは、お正月を始め節目には必ず神社をお参りし、神様に守られ導かれていることへの感謝と日々の健康などを祈ってきました。鳥居をくぐり手水舎にて手と口をすすぎ、玉砂利を踏みしめてご神前に向かう間に、心身は清められていきます。心の環境をも整える場所が、「鎮守の杜」という癒しの空間なのです。

厄年の過ごし方

厄年は、人生の節目を大切にしたい生活の知恵や教訓が込められています。身体の変調期や生活環境の変わり目にあたり、体調を崩しやすいときに重なります。厄除祈祷の際に授与されたお神札をおまつりし、お守りを身近に持つなどした上で、健康に留意し慎みを持って生活することが大切です。

無事に年を重ねたことの喜びをかみしめ、神々に「生かされて」いることを感じ、日々清々しい心で生活したいものです。



破魔弓矢 初穂料二、〇〇〇円也

厄年 平成30年

	男	性	女	性
前厄	昭和34年	60歳	昭和58年	36歳
	昭和53年	41歳	昭和62年	32歳
	平成7年	24歳	平成13年	18歳
本厄	昭和33年	61歳	昭和57年	37歳
	昭和52年	42歳	昭和61年	33歳
	平成6年	25歳	平成12年	19歳
後厄	昭和32年	62歳	昭和56年	38歳
	昭和51年	43歳	昭和60年	34歳
	平成5年	26歳	平成11年	20歳

遠江國一宮 小國神社

〒437-0216 静岡県周知郡森町一宮三九五番地の一
電話 (0538) 八九七三〇二
FAX (0538) 八九七三六七
URL <http://www.okunijinja.or.jp/>

八方塞がり

万事に慎重を要する年まわりとされています。

九紫火星生まれの方	昭和30年	64歳	平成3年	28歳
	昭和39年	55歳	平成12年	19歳
	昭和48年	46歳	平成21年	10歳
	昭和57年	37歳		

黒星

運気が低迷する年まわりとされています。

五黄土星生まれの方	昭和25年	69歳	昭和61年	33歳
	昭和34年 <td>60歳 <td>平成7年 <td>24歳</td> </td></td>	60歳 <td>平成7年 <td>24歳</td> </td>	平成7年 <td>24歳</td>	24歳
	昭和43年 <td>51歳 <td>平成16年 <td>15歳</td> </td></td>	51歳 <td>平成16年 <td>15歳</td> </td>	平成16年 <td>15歳</td>	15歳
	昭和52年 <td>42歳</td> <td></td> <td></td>	42歳		

※年齢は数え年です。

- ◆ 祈祷料五、〇〇〇円より
- ◆ 厄除大祭神札及びお守を授与いたします。
- ◆ 祈祷受付午前九時～午後四時

小國神社のはじまりから現代までの壮大な物語



公式ウェブサイト特設ページでスペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり

検索